

## 「穂の郷」に込められた私たちの願い

日本書紀や古事記に「豊葦原瑞穂国(とよあしはらのみずほのくに)」とあるように、日本は豊かで広々とした葦原のように、瑞穂の実る国として美称されています。

私たちの先祖も、みずみずしい稲穂が広がるこの地で、稲を育て、その実りである米を食べ、子どもを産み、育てて、また、稲や稲穂から作られた酒を地元の神社や寺院に奉納し、自然に収穫を感謝しながら生活していたと思います。

そして、日々の営みを親が子に、そのまた子へと伝えていく中で、先祖や自然を敬い、地元や郷土を愛する心が育っていったのだと思います。

私たちは、乳幼児から高齢者までの世代が共存する施設の名称を決めるにあたり、人と人、人と自然をむすびつける架け橋として「稲穂」を用いることにしました。

保育施設は、子ども達が健康にすくすく育つように、豊かに穂が実るように「ほのみ」と名付けました。

高齢者施設には、長い人生の中で蓄えた、豊かに実る知恵や経験を、次世代を担う子どもたちに伝えてもらえるように「みのり」と、そして、この幼老複合施設の総称を「穂の郷」としました。

